

# 会議録

1. 会議の名称	令和6年度第1回協働推進委員会
2. 開催日時	令和6年11月21日（木）19時00分～21時30分
3. 開催場所	熊取町役場北館3階大会議室
4. 議題	(1) 住民提案協働事業制度「団体提案型」の公開プレゼンテーション等 ① やまとみんなで町をえがおに ② 手話ダンスを通じて、子どもからお年寄りまで誰もが手話で会話ができる環境をつくろう ③ バレーボール部 熊取町PRプロジェクト ④ くまとり新規就農塾（熊取町での新規就農希望者のための農業塾） ⑤ つなぐ、育む、熊取農業 (2) 委員会判定会議（非公開）
5. 公開・非公開の別	一部非公開
【一部非公開の理由】	委員会判定会議については、提案事業の採択・不採択の審査の公正かつ適切な意思決定を担保するため、当該情報は審議会等会議公開指針第3条第1号に該当すると判断し、非公開とした。
6. 傍聴者数	2人（一般）、10人（事業所管課）
7. 審議等の概要	(1) 住民提案協働事業制度「団体提案型」の公開プレゼンテーション (3団体)、質疑のみ(2団体)。 ・実施にあたり、審査基準を確認のうえ、審査結果は町に提言を行い、町が事業実施の可否を決定後、後日郵送で通知することを説明。 その後、委員と提案者による質疑応答を実施した。【別添参照】 (2) 委員会判定会議（非公開） 【審議結果】 上記①の提案事業については「不採択」、②～⑤については「採択」となった。
8. 会議の情報	名称 協働推進委員会 根拠法令等 協働推進委員会規則 設置期間 平成22年12月7日～ 所掌事項 住民提案協働事業の審査等及び協働のまちづくりの推進について町長から意見等を求められた事案に対する協議・検討及びそのほかの協働のまちづくりの推進に関すること 委員数 6人
9. 担当課	企画財政経営課（政策企画グループ）

# 令和6年度 第1回協働推進委員会 (R6.11.21)

## ■ 「団体提案型」公開プレゼンテーション 提案団体に対する委員からの質疑応答概要

### ① やぎとみんなで町をえがおに

提案団体：ネットワークふあみやん

#### 【質問】委員

- ・会員73名のうち24名が町外の方。事業を行う上で障害にならないか。

#### 【回答】提案者

- ・町外の方が多い理由は、この事業を知り合い等に対し口コミでしか紹介できていないため。
- ・今後、施設を拡充するなど環境を整えることができれば、町内にも宣伝していきたい。

#### 【質問】委員

- ・事業目的は、不登校の子の居場所づくりと、やぎで荒れ地を綺麗にすることの2本立てか。

#### 【回答】提案者

- ・2本だけではなく、数多くの取組を行う事業。不登校ではない子も含む。もう少し余裕があれば、不登校の子に対しもっと宣伝していきたい。

#### 【質問】委員

- ・今飼っているやぎもし亡くなった場合どうするのか。

#### 【回答】提案者

- ・計画的に繁殖させる予定。

#### 【質問】委員

- ・予算書にあるパソコン購入費用の割合が高い。具体的な使用方法は。

#### 【回答】提案者

- ・子どもたちの学びや調べ、外部の人とのコミュニケーションツールとして使用する。

#### 【質問】委員

- ・事業に参加する子どもは公募するのか。

#### 【回答】提案者

- ・現在もSNSで公募している。

#### 【質問】委員

- ・熊取町では不登校児の相談・支援を目的に教育支援センターを開設している。教育支援センターとの関わりはあるのか。

**【回答】提案者**

- ・事業としての関わりはまだこれから。教育支援センターの見学等は行っているところ。

**② 手話ダンスを通じて、子どもからお年寄りまで誰もが手話で会話ができる環境をつくろう**

**提案団体：スプリング**

**【質問】委員**

- ・町立保育所には訪問しないのか。

**【回答】提案者**

- ・町立保育所にも訪問したいが、まだできていない。

**【質問】委員**

- ・熊取町 PR 活動とは具体的にどのような活動か。熊取町の対外的な PR なのか。

**【回答】提案者**

- ・「くまとりへGO」の CD やポスターを配布し、熊取町を対外的に PR するもの。

**【質問】委員**

- ・昨年の協働推進委員会でも質問したが、公共性の確保のため、熊取町の様々なイベントで手話をしてることはできないのか。

**【回答】提案者**

- ・依頼があればぜひ参加したいと考えているが、まだ依頼がない。

**【質問】委員**

- ・採択される前と採択された後での事業成果の違いは。

**【回答】提案者**

- ・保育園では、子どもたちが手話を覚えるきっかけをつくることができている。
- ・高齢者施設では、難聴の方との交流ができており、喜んでもらっている。

**【質問】委員**

- ・ろう者との関わりはあるか。

**【回答】提案者**

- ・関りを持ちたいが、ろう者は音楽が聞こえないため一緒に活動はできていない。

**【質問】委員**

- ・スプリングの会員は手話の資格を持っているのか。

**【回答】提案者**

- ・代表者以外は持っていない。手話の勉強はしている。

### **③ バレーボール部 熊取町 PR プロジェクト 提案団体：大阪体育大学バレーボール部女子**

**【質問】委員**

- ・インスタグラムでの発信回数が9回。少ないよう思うが。

**【回答】提案者**

- ・試合シーズン時は更新を控えている。もうすぐシーズンが終わるので、更新回数を増やしていきたい。

**【質問】委員**

- ・この事業は熊取町のPRに繋がっているか。

**【回答】提案者**

- ・応援してくれる人や関心を持つてくれる人が多ければ学生の力になる。
- ・熊取町PRのユニフォームを着用することで、クラブの遠征の際に他のチームから注目される。

**【質問】委員**

- ・応援の広がりなどを実感するエピソードはあるか。

**【回答】提案者**

- ・SNSのコメントが増えていること。また、行政のロゴが入ったユニフォームを着用しているチームはないので、インパクトがあったと思う。

**【質問】委員**

- ・クラブのユニフォームに行政のロゴを入れるアイデアは上手く考えられていると思う。みんなの取組が先駆けとして広がる展望についてどのように考えるか。

**【回答】提案者**

- ・新規性があったので、マスコミ等から取材を受けることがあった。学内でもこの取組をPRしているので、他のクラブ等にも広がっていくのではないかと思う。

**【質問】委員**

- ・広がるのは良いことだが、補助金を交付することが難しくなる面もある。よって、皆さんの取組がトライアルな事業として、どういう効果をもたらすか検証することが大事になる。この取組について学内の他のクラブでも興味関心を持っておられるのか。

**【回答】提案者**

- ・この取組は珍しいので大学の新聞でも取り上げられた。

**【質問】委員**

- ・今後の展開やアイデアはあるか。

**【回答】提案者**

- ・熊取町のPRと学生の熊取町への愛着を1番に考え、引き続き取り組んでいく。

#### ④ くまとり新規就農塾（熊取町での新規就農希望者のための農業塾）

**提案団体：くまとり新規就農塾**

**【質問】委員**

- ・令和5年度の実績報告において、半農半Xコースから3名の新規就農者が育っていると記載があるが、この3名の現在の状況は。

**【回答】提案者**

- ・この3名は町外で就農を予定している。本気で農業を目指す方は町外の方が多い。町内の方は家庭菜園レベルを選ぶ方が多い。

**【質問】委員**

- ・新規就農塾の卒業生と現役の塾生との関わりや広がりはあるか。

**【回答】提案者**

- ・約70名が参加するグループLINEがあり、農業に関する情報交換を行っている。

**【質問】委員**

- ・半農半Xコース以外にも新規の入塾者はいるのか。

**【回答】提案者**

- ・これまで新規就農するためには農業は儲からないし厳しいということを伝えてきたが、それだと長続きしない。よって間口を広げることを目的に一日体験や家庭菜園レベルの方を募集するため、野菜栽培教室を10月から始めた。
- ・YouTubeや図書館のまちセミナー、まちサロン等を実施しながらPRしている。

**【質問】委員**

- ・3年目以降の展開は何か考えているか。

**【回答】提案者**

- ・本気で農業を目指したい方は少なく、どんどん減っている。新規就農塾は続けていくが、家庭菜園を行う方を募集していく方向。女性にも人気で育てやすいさつまいもの栽培をするグループを作っていくたい。
- ・簡単に農業ができるなどを周知し塾生を増やしながら、事業の目的である耕作放棄地の解消に繋げていきたい。

**【質問】委員**

- ・シャインマスカット等のフルーツを栽培することはできないのか。

**【回答】提案者**

- ・農地を借りる際に所有者から嫌がられるのが果樹とハウス。果樹を植える際に田んぼの床という固い層を割る必要があるため、農地を借りることが難しい。

## ⑤ つなぐ、育む、熊取農業

提案団体：わりかし若い百姓の会

【質問】委員

- ・稲刈り体験後のお米はどうしているか。

【回答】提案者

- ・参加者への販売や、お米屋さんで取り扱ってもらっている。また、ふるさと納税の返礼品としても提供したいと考えている。

【質問】委員

- ・新規就農塾との連携は考えているか。

【回答】提案者

- ・わりかし若い百姓の会には、新規就農塾の岩崎さんにお世話になっている会員がいるので、連携も可能。

【質問】委員

- ・事業目的のひとつに販路拡大があるが、どのような方法を考えているのか。

【回答】提案者

- ・直売所等で野菜を販売する際に、「熊取産」のシールを貼ることで熊取産野菜を選んでもらえるよう工夫したい。
- ・この取組を通じて若い人が農家を選んでもらえるよう認知拡大を目指したい。

【質問】委員

- ・熊取産野菜を学校給食に使用することはできないのか。

【回答】提案者

- ・昨年、学校給食のカレーに使用するための地元野菜を提供したことはある。

【質問】委員

- ・町内に直売所を作ることはできないか。

【回答】提案者

- ・資金が不足している。また、直売所を運営するうえで農作物を通年で確保することが難しい。

以上